

# 香葉



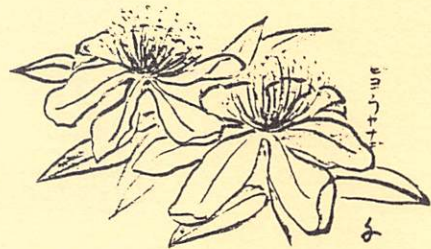
1984

NO.13

## 目 次

新図書館完成	1
「発展する我が女子短大」	2
「新しい図書館のこと」	3
覚え書（十三）	5
展 望	8
コーヨスポットライト	12
香報室	14
“香葉会のつどい”お知らせ	18・19
「第1回夏期海外研修」を実施して	20
クラス会報告	23
五十八年度“香葉会のつどい”報告	24
合同同窓会報告	25
賛助会	26
母校ニュース	27
編集後記	28

表紙……………関 頼 武  
カット……………青 木 千恵子





新図書館全景



図書館内スナップ

# 発展する我が女子短大

林 淳 三



卒業生諸姉には、関東学院女子短大が、この十数年間に著しく発展したことをご承知と思う。例えば本学志願者が昭和四四年四一七名→五八年四九〇六名という実に一一・八倍の伸びを示し、全国・国立・公立・私立短大五三

五校中、総数において第一四位を占めていることにもこれを証明している。

一体、このような本学の飛躍が短期間にどうして行われたか、私は度々他大学の先生方から質問を受け、中には訪問される方もある。そこでその原因を私なりに解析すると、大約次の事項から形成されたと考えられる。

- 1、キリスト教の教えを建学精神にする関東学院の横浜における知名度と、短大制度発足時から開設されている本学の歴史
- 2、昭和四〇年代の関東学院大学紛争時に短大を大学依存から分離し、主体制の確立をはかり、独自の積極的施策を行ったこと
- 3、女子教育を行うことのできるキャンパスを確保し、短大マスタープランのもと、逐次美しい校舎を建築してきたこと
- 4、家政科を専攻分離して栄養士養成課程を設け、更に幼児教育科を設置して職業教育を導入して総合短大化をはかったこと
- 5、学生総数を約一五〇〇名まで次第に増加し、経営的に適正規

模とし、その安定化をはかったこと

- 6、本学々生の出身が七、八割を占める神奈川県において、近年人口社会増が著しく、それに伴う高校増設ブームがあったこと
- 7、幼児教育科設置をめぐり、一、二の不調和音をとなえた教員があつたが、それ以外はいろいろの困難なことにも、教職員が一致団結してその発展に盡力してきたこと

本学はこのような原因で発展してきたが、しかし、短期大学は四年制大学と専門学校の夾撃を受ける立場にあり、制度上必ずしも安定な状態ではない。更にこれから十年余りは十八歳人口が激増して次に激減する時期に当るので、本学が永続し発展するためには、常に女子の大学としての在り方を模索して、前進をはかる必要がある。それには現状維持に満足するのではなく、教育・研究・経営運営にわたり創意工夫を重ね、魅力ある女子の大学にすることが大切ではなからうか。

そこで現在、本学が実施しつつある改革事項や建築、事業並びに今後の新しい計画、展望は次の如くである。

- (一)、教育課程やカリキュラムの改正 五九年度から幼児教育科のカリキュラムを全面改訂したが、唯今家政科の体質改善を検討中であり、時代に適応した教育コースの設置も検討されている
- (二)、教育環境の整備 本年四月に新図書館が出来、これに伴う二、三号館の再配置工事が行われる。また、グラウンドの整備、チャペル建設の計画もあり、学生の勉学、クラブ活動など一段と充実する
- (三)、研究所の設置 本学では専任教員を中心に各分野の研

究が行われているが、更に学的高揚をはかるため研究所開設を計画申

(四)、国際交流の充実 昨年八月ハワイ大学で短期語学研修を実施したが、これを継続するとともに、近き将来、アメリカ本土のキリスト教系大学と姉妹提携して、教員の交換留学なども実施したい。

(五)、公開講座の継続 昭和五七年度から、本学独自の公開講座を七月末開催してきたが、その好評なことから継続したい。

(六)、事務機構の整備とシステム化 現在事務は六課であるが、将来は就職事務の分離が必要にならう。また、広報課、教務課は外注による電算化がなされているが、将来は図書館を含め一貫したシステム化を計りたい。

以上の如く本学は年々充実しつつあるが、本年はあたかも関東学院創立一〇〇周年記念に当る。これを機会に本学が更に飛躍せるものと思われる。卒業生の皆さんのご支援をお願いする次第である。



## 新しい図書館のこと

山下 登喜子



図書館と事務部門が移転する新しい建物は、五十九年四月に完成する予定です。

総面積がおよそ三千三百平方メートルになるこの建物の、地下室を書庫のために、二、三、四階の大部分を開架閲覧のために使います。座席も百二十余り用意できますし、蔵書も現在は五万冊ほどですが、最高二十万冊まで収められるようになり、今までより広いものになるはずで、五階には、視聴覚のホール、資料室、共同研究室などが新設されます。ホールは六十席くらいの規模ですが、この道の専門の先生に機械の二々を選んでいただき、小ホールの特色をよくいかしたものに、準備も大部整いました。ここは、毎週礼拝堂にも使います。また個人でビデオやカセットのテープ、レコードなどを使いたく、勉強もできるオーディオ・ルームが併設されます。共同研究室は、数人の共同研究につかえる小室で、少し声高かな話をする事ができます。

図書館の新築は、ここ十年くらいの間に、次々と計画実行されるようになりましたが、いずれも旧来のものに新しい特色を加えることにいろいろ苦心があるようです。私どももすでに新築された他の大学図書館を見学させていただきながら、準備委員会や図書館員の

間で討議をかさね、本学にふさわしい計画を練り上げてゆきました。今、それを実現する途上にあるわけですが、一つずつ物事が具体的にみえて来ることが嬉しくもあり、少し不安にもかられます。なるべく早く動き出して、あれこれ修正を加え、しっかりとした軌道を敷いてしまいたいというのが、正直な今の私の気持ちです。

新しい計画の一つは、オフィス・コンピュータを使って、図書館事務を整備しなすことです。貸出し・返却などのカウンター業務・雑誌管理・図書の受入れ業務など三年の間にプログラムを新しく開発する予定で、準備に入りました。業務全体の中で、改めてその一つ一つをとらえ直すことからはじめていますが、今までは、少し不備であっても、曖昧のままでもそれほど問題にならなかつたことも、機械に力を入れるためには捨てておけません。私などには想像もつかないほど緻密になってゆく機械の組織力に驚きの連続です。やがて事務に時間を省くことができるようになれば、私どもは、利用者への奉仕に、もっと力を注ぐことができるはずで。

また従来のようなロッカーに荷物を入れてから入館することを止めて、荷物を手にしたまま自由に閲覧室へ出入りできるような工夫をしたことも、図書館の雰囲気やわらげることに関与しと思われまます。身構えて本の前に立つのではなく、本を見たい気持ちのままに自然に頁のあちこちをめくっているうち、思わず椅子に腰を下して本を読み進めてしまっている……といった学生の姿が、私の脳裏を去来します。

利用者が活用しない図書館は、どんなに立派でも素適でも、存在の意味がないのは言うまでもありません。前に述べたようにサービスにつとめて利用者によるこんでいただけるようにするのは勿論の

ことなのですが、実のところ、本は資料として必要なところだけを複写して使うものときめてかかっているような学生に出会うと、このサービスのむずかしさを思いいらされます。でも先輩達に読みつがれたその本の歴史が、いいあらわしがたい感触となって学生をひきつけることがあるにちがいないと、私は信じています。館員は、新図書館の運営について実に多岐にわたって討議を重ねているのですが、その中核は、学生に真の読書をしてもらうことにあります。本の沢山ある部屋の楽しさももっとふくらむようにということです。ここに至るまで私どもを助けて下さっている関係各位にあらためて御礼を申し上げる次第です。

(一九八三、十二)



# 覚え書 (十二)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

関東学院の歴史は明治十七年（一八八四年）横浜山手七十五番地に設立された横浜バプテスト神学校から始まっていることは周知のことであるが、明五十九年（一九八四年）はそれから数え丁度百年に当る。そのため今回、その神学校が設立された十月六日を創立記念日とすることが既に決定しており、学院の各学校がこれを機に記念事業を計画していることである。最近はこの覚え書のメモにもなるので、記録しておくようにしている。金沢八景に書き留めておくようにしている。内川橋より左折、学校の前を通り柳町を経由して八景に戻る「夕照橋循環」バスは、本年九月一日（木）より「関東学院循環」と改称された。本学前も以前は「グラント前」であったものが改称と同時に「女子短大前」に変わった。京浜急行電鉄本社と再三交渉を重ねてやっ

と実現したのである。次に明春完成する図書館等の建物については前号で概略報告したが、今回は各階の様子を記してみようと思う。現在生コン打ちも三階まで終り、十一月末には四階部分を打つことになっているし、十二月末までには五階を打ち上げてしまいたいとフジタ工業の所長も語っていた。今迄の建物と異って書籍を沢山収容する関係上鉄骨鉄筋構造と大変頑丈な物となっている。一階は本学管理運営各部門の事務局および非常勤の先生の控室があり、二階には学長室・図書館長室・同務室・コンピューター室がある。地下書庫は二十年後を考えエレコンパック使用、約十萬冊収容可能であり、三、四階の書架（開架式）には五萬冊を計画している。館内の業務はコンピューター導入をもって貸し出し、返却、検索、雑誌受け入れ、目録変更等総べて処理できるよう計画されている。五階は視聴覚室、オーディオ室、資料室を設けることになっている。目下の処図書館と二号館とを結ぶ渡り廊下も工事中のため、正門から入ってきた学生は、危険防止用ベニヤ板（化粧済）で囲んだ通路を抜けて中庭に入るような形になっている。

さて、前号は三春台校地から六浦校地へ移

る様子を記したが、六浦校地へ移ったの通学路は国道十六号線沿いのバス停内川橋で下車し、磯の香漂う入り海（当時は現在の埋立地柳町が無く平潟湾が広がっていた）に沿っての道路、砂利道を通って学校へ向うのであるが昼間部の学生は凸凹道であっても雨天でもない限り余り困ることはなかったかも知れないが、夜間（英文科第二部）の学生は通学が不便だった。外灯のないこの道は真つ暗がり、特にやみ夜は道路と海との境が判らない、授業が終って帰る暗闇の道、雨上りなどは凹地部分の水溜まりが良い道に見えて水溜まりに足を取られることがしばしばあった。夜学の女子学生は帰り道が怖いので何とかして下さいと申し込まれることがたびたびあって、その都度男子学生に協力を依頼し、得られない場合は国道まで送ることもあったのを思い出す。今では前述のように昼は循環バスも通っている今の学生には想像もつかないことだろう。そしてまた、余りにも周囲が変り過ぎて、当時の学生唯々は驚かれることだろう。一号館正面玄関も懐かしいがこれに向って右手に巾広い通用門があつて、門の傍らに樋口老夫妻が住んでいた。この門より入って突き当たりにサンヨーホールと続いて講堂（現在



の経済学館の所)があつて、その屋根棟の角にベルが吊してあつた。このベルを樋口老人が鳴らし礼拝のときを知らせていた。これが日課として思い出す。この通りの左側には一、二、三号館の木造二階建の校舎が東西に

延びて建っていて、右側には学院の収益事業としてのメッキ工場(旧工業専門学校時代の実習工場)の建物が棟を並べていた。一号館は管理部門と教室、二、三号館は教室、特に三号館二階全部は短大女子専用の教室となっていたが、総べて旧海軍航空技術廠工員養成所の施設であつただけに女子学生の教育施設としては程遠い環境だつた。昭和三十九年秋頃にはこのメッキ工場も久里浜に土地を獲得し工場建設に着々準備が進められて、工場の設備が完了しても事業部としては、昭和四



十三年度まで続けられていた。昭和四十四年の五月より学院の事業部から分離、独立して関東化成工業㈱として発足したのである。

前号は昭和二十九年七月の初旬、中伊豆に天城山荘という研修会、修養会などのために借用出来る施設があることが判り、借用の手続きをしたところまでだつた。当時の天城山荘は木造二階立の建物で、本館と別館の二棟だけだつたがこれは昭和二十八年十二月に完成し、翌年の一月より営業を開始したと聞いている。我々が申し込みをした当時は、まだお米持参で一泊三食付四一〇円だつた。後に新館の建物が完成したが、昭和三十一年七月だつた。その後本館が古くなり昭和四十五年に鉄筋コンクリート三階建に生まれ変わり、昭和五十五年には新館部分がホテル機能を備えた新しい姿に変わつて今日に及んでいる。ところで第一回为天城山荘使用なので少しその折の模様に触れてみよう。参加者一行は横浜駅より国鉄を利用して三島駅へ、そこで乗り換え電車で修善寺へ。駅前から待機中のバスの人となつた一行は一路天城山荘に向かうのであるが、道路も現在のように完全舗装ではなく僅かに舗装されている箇所があつただけで、砂利道が多かつた。バスの通つた後は土煙り

が舞い上つて何も見えない。こんな状態なのでバスも揺れる揺れるスピードも上らない。今日のように恰も滑るが如く走るのでないから時間も今よりははるかにかかつた。やがて中伊豆の温泉場「湯ヶ島」なる所を通過する。修善寺駅よりこの湯ヶ島までは定期便の教も多いが、これから天城越えて下田へ向うバスは少なかつた。我々の車も峠の方へ進んで行く。道は益々狭くなる。道の左側は崖が迫つていて所々清水が湧きでて路まで濡らしている。右側は断崖絶壁、景色はよいが一段と山あいが深くなつてくる。崖下の谷川がやがて修善寺・伊豆長岡を経て沼津方面へ流れて行く狩野川の上流である。山の中腹を蛇行して





いるこの道を進まねばならぬ。やがてガイドさんの声「皆さま！（道路が悪くて）お疲れさまでした。皆さまがたがこれから行かれるキリストさまの道場は、あの赤いお屋根の所

です。赤いのが少し見えてきましたね。もう少しのご辛抱です……」と言われて目をむけると緑の中、山ふところにくっきりと赤い屋根が見えていた。この土地の人々の口を突いて出る・キリストさまの道場。と言う言葉は今でも強く印象に残っているが、どうも私だけでは足りない。いよいよ予定のプログラムに従って二泊三日の会が始まる。静かな伊豆の山中に於ける生活は、自ずから身のひきしまる思いがする。大自然の息づかいを感じながら起居を共にする学生達の交わり、寝食を共にしての友人との語らい、キャンドルを手溢れる感激に涙しての証し会、先生方を囲んでの少人数の各種の分団懇談会など、盛り沢山のプログラムも無事に終えることができ、様々の思いを胸に秘めて学生も山を下ることができた。食事も良く施設も良かったせいか「こんなすばらしい修養会をもつことができたのは初めてだね。この上もない感謝だ……」と帰りのバスの中で先生方は色々話していた中にこんな言葉が混っていた。あれか

ら三十年の歳月が流れようとしている。その折参加した学生（卒業生）に最近会うことができたが、今もってあの時の感激は忘れられないと話していた。

この年の夏休み中も例年のように講習会や集中授業が計画され実施されている。英語講習会は昼夜に亘って開講され昼は七月二十一日（水）から八月六日（金）までで担当者時田、光畑、太下の諸先生、夜は八月二日（月）から二十日（金）までで担当は時田、光畑の両先生、それと並行して家政科の講習会が七月二十六日（月）から三十一日（土）までで担当は桧垣、井口、村田、横山、金子、大原の諸先生によって開かれており、特に家政講習のときは近隣の主婦や高校以下の父兄の有志なども加わり盛況だった。その上夜間の教職科目の集中授業が英語講習と同じ期間内に開かれていて担当は時田先生、夜の学生はこれが終わってやっと夏休みとなるのであった。事務職員もあの頃は夏休み中に種々業務があつて仲々休めるものではなかった。

八月二十日（金）には短大部長の相川高秋先生が米国に於ける一カ年間の留学生活を終つてクリブブランド号にて帰国している。当時は色々事情はあつたでしょうが全般的に飛

行機より船を利用する人が多かつたように記憶する。

夏休みも終つて九月に入ると夏に実施した修養会の会場、天城山荘のことが話題となつていた矢先、相川先生もオレゴン州のポートランドから車で二時間程奥に入った夏のキャンプの様子、樹令数百年という樹林の中、森閉として身を包む冷気、そのような中で生活経験の話とが重なって、以前から懸案となつていた修養会を全学的なものとして実施したいと考えていた折、総べてが重なって、騒然とした都会の日常生活から一步退いて静かな環境の中で自己を見詰め、黙想のときを持ち、友と語らい、自然の声に耳を傾ける機会が与

このつづきは11Pへ



# 展望



このインタビューのコーナーは、好評のうちに5回目を迎えました。各分野でご活躍中の先生方に、お忙しい中をご協力していただきました。教室では見られなかった先生の横顔を見ることができるかと思えます。

1



家政科 山口 和子

質問1 最近興味を持っていること。

質問2 人生に大きな影響を与えた人。あるいは言葉。

質問3 「戸塚ヨットスクール問題」についてどう思われますか。

質問4 初恋の思い出を……

質問5 十年後はどうありたいですか。

花を咲かせること。昔、ある年齢になったらランの温室を作り、たくさんランの花を咲かせたいと思ったことがあります。このことは忘れるともなく忘れてしまいました。が、五年前、ある人から、とても見事なグリーン・グラスというシンビジュウムを頂き、それ以来、毎年咲かせたいと思って手入れを続けています。その後、他の方から頂いたランも大切に咲かせておりますが、目下、胡蝶ランに挑戦中

す。今だに温室などありませんが――。

どちらかというとな華麗な洋ランよりも、東洋ラン種の方が清楚で好きですけれど――。

これまた、むずかしそうですネ。

2  
これまでで多くの方々から、いろいろと影響を受けてきました。それは年上の方はもちろんのこと、学生達の言葉にも考えさせられることが沢山あります。

好きな言葉――これまた沢山ありますネ。今思いつくままに「三味」「和敬清寂」としておきましょうか。

3  
？ 経過を注目中。

4  
初恋だの好きだの、はじめのつかない小学五年生の時かな。当時、師範学校を出たの先生でした。今、その頃の写真を取り出してみてもステキな先生だったと思われます。何かの弾みに足の親指の爪をはがし、泣きながら足を洗っていたとき、手当してもらったことを懐しく鮮明に思い出します。授業はスパルタ式で厳しかったのですが、今だに暖かい感じが残っております。残念なことに三十歳半ばにご病気で亡くなりました。今、お元気ならば六十歳半ばでしょう。何よりも健康でありたいと思います。

国文科 岡松 和夫



1

八月に三十日程、日本文芸家協会の代表団の一人としてソビエトに行ってきた。知らない国の知らない所を実際に目で見てその国の文化に触れることが好きだし、人々の暮らしぶりにも興味があります。ソビエトには資本主義国にあるようなものはないし喫茶店等も少なく不自由だろうと思うけれども、彼等は彼等なりに自分達の国を愛しています。一昨年客員教授として行ったブラジルでも、貧富の差が激しく住みにくいと言われるけれど、その土地それぞれによさがありそれを人々は大事に思っているし愛しているということが、行って初めて解るのです。サンパウロでタクシーに乗った時運転手が、「東京には自動車はあるか？」と聞いたんです。何か自慢したくて仕方がないんだなあ……。またどこかへ行ってみたいです。中国やインドなどい

2

いですね。それから、いろいろな外国語も勉強したいと思っています。

唐木順三さんですね。哲学者であり、国文学もよく研究されて、僕は二十代後半から読み始めましたが、文学はもちろんものの考え方という点でもいろいろ教えられることの多かったです。亡くなる三、四年前にお会いできましたが、とても酒が好きで、それも日本酒党ですね。世界の酒で、温めてその味を楽しむものがあるのかなどと言っておられました。

4

初恋と言うのは余り打ち明けなかったりばやーとしているもので、段々記憶から薄れていきますね。灼きついていると言うと大袈裟だけどそうなる十代の後半位からの恋じゃないかなあ。僕はいとこが好きだったね。その人は短歌を作っていて、日本的な感じの年上の人でした。旧制の福岡の高校の頃、朴菌の下駄に白線帽をかぶり町を闊歩する……。エリート意識の一種かな。そういう恰好で、帰りにいとこの家へ行き、話したり、お茶を飲んだり、本を借りたり……。いつも側に居たいと思っていたから、あれが恋愛感情かなあ。その頃はもう結婚されていました。見た目

5

は、長いことたつと飽きてしまつ。男の人が持っているような良さに惹かれるんじゃないかなあ……。日く言い難い感覚ですね(笑)。

割合、いきあたりばつたりな、今を充実しておけば良いという感じで、結果として十年先に行きついた所になるという感じで、全然考えていないんです。できたらいの小説をいくつも書いてみたいという程度ですよ。最近、六十歳になる年上の友人が肺癌になってガンセンターで治療が続けていますが、僕らになると十年後そういうこともありうるわけ……。まず健康でありたい、そして回りの人も健康でいて欲しいです。僕は神経過敏のせいで胃腸をすぐこわすんです。学生時代、西荻窪からお茶の水まで通ったけれど、各駅のトイレの場所を全部知っておいた位で……。(笑)。外国旅行に行く前なんか緊張するから、前の日なんかすごいんだよ(笑)。胃腸薬から離れられない。そういう人いるの、開高健なんかも。旅行好きで、外国行くと直っちゃんだった。そんなわけで、あと十年位たつたら神経過敏が直って欲しい。これは僕の重荷で

あります。原稿を書かなくなれば直ると  
医者は言うがそれは仕方ないでしょ。好  
きで書いているから。その為に生活を全  
部やりかえる、原稿を書かないなんてい  
やなんだ。でも何とか直したいものです。

### 英文科 加藤 紀子



1 研究の方ではイギリスのロマン主義につ  
いて色々な本を読んでいます。他には、い  
つも新聞を趣味のように丁寧に読んでい  
るので政局の動きにも興味があります。また、  
今年の九月から水泳を始め、週に一度スイ  
ミングプールへ通っています。学生時代は  
硬式テニスをしていましたがテニスは日  
焼けしますので最近は水泳をしています。  
人生に大きな影響を与えた言葉は、ロマ  
ン・ロランの本の中にあってペートル・ベン  
の言葉と言われる “Durch Leiden  
Freude” (苦高悩を乗り越えて歓喜へ) です。  
最近好きな言葉は「継続は力なり」と

「神は、神を愛する者たち、すなわち、  
ご計画に従って召された者たちと共に働  
いて、万事を益となるようにして下さる  
ことを、わたしたちは知っています」  
(ローマ人の手紙 八・二十八)

3

詳しくは知りませんが、教育というもの  
は、もっているものを見つけ出し、それ  
を育むものだと思うので、「力」によっ  
て教育ができるかは疑問であると思いま  
す。また、家庭内暴力の子などをそうい  
うところへ入れなくてはならないという  
状況にも問題があると思います。

4

今考えてみますと中学二―三年の頃の同  
窓生だったと思います。生徒会長をする  
など、活動的な人で、テニスクラブの仲  
間でした。手紙の交換などしたわけでは  
なく、あとで考えてみて、そうだったの  
かなあと思うのです。

5

今と同様に健康で、教育と研究を元気に  
続けていたいと思います。夢としては、  
永い間研究しているイギリス十九世紀の  
ロマン派の詩人ジョン・キーツの作品に  
ついての研究がまとめられたらいいなあ  
と思っています。

### 家政科 倉 沢 新 一



1 まだ若い(?) せいか見るもの聞くもの  
いろいろ興味がわきます。今は、コン  
ピュータ関係で、他の大きなコンピュ  
ータとデーター通信でもしよかななどと  
思っています。

2

感化を受けやすい(素直?) な性格のた  
めか、人生のいろいろな場面で出合った  
人や言葉からいろいろな形で影響を受け  
ているようです。

3

一つの方法で人間の教育ができると思っ  
た点が不幸、また、そのような所に我子  
を送らねばならない親と送られる子も不幸。  
ただし、ヨットはすばらしいスポーツです。

4

「初恋」と言えるようなロマンチックな  
経験は、残念ながらありません。幼稚園  
の時の先生やお友達から始まりそれぞれ  
に、いろいろと。

5

まだまだ発達途上人であると思います。  
(どこかのコマージュナルにあったかな)

## 香葉会よりのメッセージ

### 香葉会会員名簿制作にあたり一言

現在、会では、長い間発行することができなかつた会員名簿を作るため準備を始めています。住所・氏名・勤務先など、正確なものを必要としています。変更などありましたら、是非ご一報下さい。又、お友達の変更等もご存知でしたらお知らせ下さい。よろしくご協力の程、お願い致します。

おハガキなどで……

〒236 横浜市金沢区六浦町4834

関東学院女子短期大学内 香葉会宛

おデンワでは……

毎週月・水・金曜日午前9時30分から午後3時30分

045-784-1491 (内216)

香葉会事務局 淵上まで

えられるならば……ということから「リトリート」という言葉が最適な呼称ではないだろうか。と、九月二十日(木)の教授会で色々討議した結果、今後修養会の名称はリトリート(Retreat)と改称することに決定した。その後今日までも引き続いてこの名称で毎年行われている。

この年は関東学院創立三十五周年に当るので、記念式が十月二十三日(土)三春台校地のグレースレット記念講堂で盛大に挙行されている。その一週間後の三十日(土)にはシェイクスピア英語劇が記念公演としてグレースレット講堂で午後一時と五時の二回に分けて上演されている。昼間部学生による十二夜(Twelfth Night)夜の英文科生によるリヤ王(King Lear)であった。因らずも本年(昭和五十八年)十二月二日(金)三日(土)公演予定のシェイクスピア英語劇も十二夜である。これをもって昭和二十三年女子専門学校(現関東学院女子短期大学)の学生により第一回ベニスの商人を振り出しに上演回数は三十二回を重ねている。

十一月に入って最初の土曜日、六日は四短大(青山学院、恵泉女学院、フェリス女学院と本学)の交換会が開かれている。午前十時開会礼拝に始まり午後四時頃までに、文化面に、体育面に各種目を通じて親睦が深められていたのである。

(つづく)

# コーヨースポットライト

郷土玩具とともに

佐藤 美代



まして、その時は、雨の中を遠くまで出かけて行き、風邪をひいてしまったこともありました。少し落ちついてきますと、やはり、珍しいものの、良い物に目が行くようになりまして。年月がたち、数もだんだんに増えてきますと、家の中でも目だつようになり、家人の苦情も増えてきましたので、大半は、お蔵入りとなり、楽しみ方を変えざるを得なかったのは、当然の成り行きでした。

昔から、愛好家の会がありまして、戦後復活した会に、通称「竹とんぼ」という会があります。この会に入って以来、十年余がたち、諸先輩のお話しをうかがい、文献をさがし、調べたりしてみると、これも結構楽しいことでした。

明治以来の書物によりますと、中には、玩具収集に一生をかけた方もいた、良き時代もあったようですが、今日では、生涯の趣味と

楽しんでいる方がほとんどです。玩具の相手というと、女性の方々と思いの他、老若会員の大多数を男性が占めて、土人形を手にしてうっとりさせられるのを、入会当時は、不思議な気持ちで、拝見しておりました。熟年の男性が、玩具をとり合っているところなどは、何やらほほえましく、楽しい会です。

庶民生活から生れた、これらの玩具は、江戸時代以来（記録に残るもの）、全国各地に、細々ながら、今日まで続いています。

子供の遊具としてだけでなく、各地の神社、仏閣で授けられたもの、門前の緑日で売られたものは、縁起物といい、ご利益を願ったものでした。当時は多かった乳幼児の死から、子供を守り、生れた子の無事成長を願ひ、医薬に乏しい庶民が、疫病から身を守り、せめて罹っても軽くすむようにとの親心から、求められたのだと思います。例えば、よくある「赤物」と称される、真赤に塗られた玩具は、瘡瘡よけにされたといわれます。その他に、子孫繁栄を祈るものや、農作物の増産を祈るもの、商売繁盛を祈るものなどがありますが、苦界に身を沈めた女性が、病氣や妊娠から身を守るように求めたものまであるのは、哀れをさそいます。

貧しい中にも年中行事のおりおりに、これらの玩具を買い求め、飾った人々がいて、材料は身近にある粗末なものでも、工夫をこらして、作った人々がいたことは、心の豊かさ、優しさが伝わってきます。そして、災に対して、なすすべのない人々のワラをもすがる気持ちを感じるうとき、また違った思いで、これらの郷土玩具をみるこ

とができます。

郷土玩具にかかわってみて、玩具は、どこの国でも同様の発想から生れ、近隣の国々との文化交流、その時代の背景をうつつしているも

のも多く、庶民の生活の反映でもあることがわかります。(こんなことを少しづつ調べたりしていくのも楽しみの一つになりました。)

江戸時代、庶民文化の繁栄と共に、文人墨客がこれらの玩具をいろいろな面できりあげています。川柳に読まれ、草紙、随筆、浮世絵の中にと残された記録は、当時の人々の中に、これらの玩具が、愛され、広まっていたことをよく物語っています。けれども、このころから、子供達のものから、大人の愛玩品、観賞用にと、華美で洗練されたものになってしまったものもあり、今日、郷土玩具といわれるものの中には、子供の手をはなれ、大人の収集品の対称となってしまうものが、多数あることと相通じるものがあるように思えます。

全国各地に残っている、これらの郷土玩具を、なんとか、存続させていくようにと、各方面で、努力がなされていますが、こうしたことにもかかわらず、素朴な郷土玩具が、次々と消えて行くのも、現実です。手仕事で、量産もきかず、後継者も少く、その前途は、多難ですが、郷土玩具も、その歴史をふり返ってみて考えるとき、ささやかなおもちゃを、守って、残すことができないような、時代であってほしくないと思います。

老後の楽しみとなるまで、続けて行くのが夢ですが、郷土玩具を集めはじめて以来、これらのささやかなコレクションでも、その一つひとつに、思い出が残っています。手にとれば、雪の中を買いに行った東北の町、駅前の店が締まっているのを、戸をたたいて、起こして、電燈に照らされた、赤い柄があざやかにみえた木地玩具、今は亡い、東北の作者が、デパートの物産展の会場の片すみで、作っていたのを、お客が他にいないので、話しかけたのをきっかけに、

めずらしい玩具絵馬を描いてくださったことなど、数え上げれば、きりがないう程あります。

郷土玩具を楽しみつつ得たさまざまなもの。それは、こちらにきたころは、近くに友人もなく、十何年前に、おもいきって、郷土玩具の会に入会しました。以来子育ての中を縫って、続けてきたことでさまざまな職業の方々と知りあえたこと、よい友人にめぐりあえたことなどです。共通の話題にこと欠かない趣味友達のありがたさでも申しましようか。家庭生活、その周辺のできごとにばかりつい目を向ける毎日では得ることのないものを、今後も大切にしたいと思うこのごろです。

写真のお面は、各地の張り面で、きつねのお面は、すっきりとしいて、表情もゆたかで、お面の中では好きなものです。

小さきさまざまですが、どれもひとつひとつが、手作りで、用途は別にありますせんが、見て楽しいものなので、あつめています。手にしているのは、張子の招き猫です。ダルマを抱いたものは、ちょっと珍しいと思います。

完



#### 筆者紹介

日本郷土玩具の会々員、全国郷土玩具友の会東京支部  
会員、歴史研究会々員。三十六年家政科卒業。

# 香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の総会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

二十三歳の娘と二十歳の息子と、共に東京在住ですので、出席して皆様にお会いしたいと思いますが、今年も出席できません。

お蔭様で健康に恵まれ、良く働いて、良く遊んでおります。仕事は実家の経営している小さな建設業の助手です。余暇に、今少し力を入れている事は、小さな合唱団。定期演奏会に向って燃えています。

※桐原（東）千恵 29英※

母校同窓会誌、香葉No.12を御送付いただき有難うございます。どの記事も懐かしく拝見いたしました。特に覚え書（十二）―女専、短大小史―の上市二郎先生の文章はいつも面白く、興味深く読んでおります。

私事ですが、昨年三月末で公立小学校教諭を定年退職いたしました。「健康第一」を、モットーに平凡な生活を過ごしております。末筆乍ら、母校の益々御発展を心からお祈り申し上げます。 ※成瀬節子 32英※

専業主婦としての毎日です。近頃は子供の手も離れ、PTAに出掛ける事も余りなく、もっぱら庭の手入れに真黒になって働いています。今はサツキが咲き、百合が咲き、目を

楽しませてくれています。これが終るとお礼肥えをやり、芝のびれば芝刈り、庭木がのびれば刈り込みと忙しい日々です。菊も何鉢か作っています。園芸科卒ではないかと言われそうです。

※進藤（堤）淳子 34英※

いつも香葉送っていただきありがとうございます。楽しく拝見させていただきました。時代の流れは早いもので、香葉を読むたびに、二十一年の経過を思い知らされます。大学に勤務して、二十一年目に入っております。

三人の子供を持ち、学校勤務、教会へと忙しい日々を過しておりますが、いつも、神様に守られておる事を感謝しながら過しております。 (関東学院大学工学部勤務) ※伊東（熱海）みゆき 37家※

卒業してから早十八年。いつの間にか長い年月がたつてしまいました。先日久し振りで山下公園に遊びに行って、まわりの変わり様にビックリ。私達の卒業した頃には、シルクセインターに勤務できたというところやましがったものですが、今はすっかりさびれて、シルクホテルもなくなつたとか。シルクホテルで



は、ダンスパーティー、謝恩会と楽しい思い出ばかりなのに。やはり十八年という年月は大きいですね。私はまだ三才というおチビを抱えて、育児に四苦八苦の毎日です。

※山田(戸田)不二子 40家※

昨年、東京より小田原へ引越して参りました。自然のない東京に比べ、畑や田んぼ、山川がまわりに残されており、三人の子供達は学校や幼稚園から帰ってまいりますと、近くの田んぼへおたまじゃくしやめだかを捕りに行っております。自然の中でたくましく成長する我が子の姿を追いながら一日がアツという間に過ぎてしまふ毎日です。

※持田(保科)しげ代 46国※

香葉を毎年送って下さるのを楽しみにしております。上の娘が小学校二年生、下が一年生になりやっと手がかからなくなりほっとしています。今年のお正月実家の父母と姉一家と私達の家族で伊豆方面へ出かけ浄蓮の滝、いのしし村に寄り、天城山荘の前を通り、学生時代をなつかしく思い出してまいりました。

(姉も国文科を卒業しております。)

※浅田(小内)美弥子 47家※

主人の仕事の関係で都会の雑踏から遠ざかり、保養地のような所で暮らしております。今、七月の出産を控え横浜の実家へ里帰りの最中でこの「香葉」を頂き、懐かしく拝見させていただいています。主人も中学・高校と関東の三春台でしたので「人になれ奉仕せよ」という教えを共通に受けた身であるせいか、今だにケンカひとつしたことがあります(あまり関係ないかな)。学校の様子もずい分と変わったようですね。今後の発展をお祈りすると共に、我々も学校の名をけがさぬよう頑張りたいものです。

※小泉(柳川)京子 50英※

長かった杜の都仙台での七年間の生活と別れを告げ、昨年八月念願の横須賀の地に帰って参りました。現在は母校防大で教官として勤務する主人と共に二人の息子(六才・一才)に囲まれて、健康な生活を送ることができ、感謝しております。結婚してすぐ仙台での生活に入りましたが、東北の人情の深さ、暖かさに数々の楽しい思い出を作ることができました。「人になれ奉仕せよ」の校訓を胸に主人の担当する学生さん達と接するたびに、学生時代がなつかしく思い出されます。短大時

代にめぐり逢ったひとと、今日もしあわせ作りに努力しております。香葉会の末永い発展をお祈りしております。

※松本(高島)悦 51英※

大変楽しく、又、懐しく、香葉を読ませていただきました。五年間、短大学生課に勤務しておりましたので、在学中も含めて、七年間お世話になった事になります。同級生や先生方の近況と同時に学生課窓口で接した学生の皆さんの名前を見つけると顔が浮んできたりして、二十代前半を過ごすには本当に有意義で魅力的な職場であったと痛感しております。

現在は一歳児の育児に日々追われておりますが、幼児教育科でもう一度勉強したい心境です。

※布施(大場)みえ 51家※

子供達と共に泣き、笑い、とび回っていた六年間の幼稚園勤務に終止符を打ち、今は、もうすぐ生れてくる我が子の為にせっせと育児用品を集めている毎日です。はじめて受け持った子も、もう六年生ですが今でも手紙をくれたり遊びに来てくれたり…。今度は、このお腹の子のお守をしてくれるのでしょうか。数年間の保育経験は果して育児に生かせ

るのかな。我が子となるとどうなることやら。

※斉藤(二神)真弓 51幼※

スイス航空スチュワーデスとして勤務して一年半。現在日本、スイス間を乗務しています。短大卒業時に就職せず、英会話の学校へ進学、その後日本橋高島屋で通訳の仕事をして現在に至っています。

同窓の方々はもうほとんど結婚なさってお子さんがいらっしやるのでは。

スイスはほんとうに美しいところです。

(スイス航空勤務)

※石黒香代子 52家※

短大の一年生の時の学祭で、今の主人とめぐり会いました。大学の工学部の同じく一年生だった彼と、お互い一目惚れ(?)だったと思います。その後、私が一足先に卒業し、幼稚園教諭となり、四年間子供達と一緒に楽しく過ごしたのですが、昨年四月に結婚し、主人の転勤でやめることになり、今は専業主婦となっております。なつかしの関東学院は私共夫婦のキューピットです。

貴校のご発展を心よりお祈り申し上げます。

※福山(上野)郁枝 53幼※

毎年、この季節になると、香葉会誌が届くことが常となり、日々の生活に流されている私を、フッと学生の頃にもどしてくれるのです。編集された方々の中に、演習室の佐藤さんのお顔を拝見し、とってもなつかしく思いました。今年には妹が受験なのですが、是非、関東学院の短大にと勧めています。

(住友電工榑横浜製作所勤務)

※野上世津子 55国※

茅ヶ崎の山奥・ひかりの子幼稚園・での働きも、四年目になりました。毎日ダイナミックに遊ぶ子どもたちと共に生活できる幸せを感謝しております。園のまわりは、田や畑も多く農村地域から集まる子どもたちもおります。まだまだキリスト教保育が受け入れられない地域でもありますが、与えられた地域で、神様の事を伝えられたら……と思っております。(荻野学園ひかりの子幼稚園勤務)

※殿木結花 55幼※

帰省しての就職というのも仲々難しく、新入社員として皆と同じにスタートを切れずに七月になって採用され今の会社に勤めております。それでも一年すぎました。卒業してしま

うと、横浜からも学校からも縁遠くなってしまっ  
て、只、毎日の生活に追われるばかりになりがちです。それで私は、ドライブを楽しんで、好きな手芸、あみものをしては休みをすごしています。偶然にも、先日横浜に久々に出かけたら、横浜どんたくの日にあたり、見物して、短大にも足をのばしてみました。とても懐しくて、写真を撮ったりして、在学中とはまた違った雰囲気を感じました。図書館ができるころ、またお邪魔しようかと思っています。

(関越道路サービス榑高崎営業所勤務)

※清水祐子 57国※

社会人となってからのこの一年間は、本当に、アツという間に経ってしまいました。いろんなことがありました。人間関係に泣いたり笑ったり。そして毎日が勉強です。新しい事の連続です。そんな一年間を過ごし、社会人二年生となった今、ちょっぴりだらけ気分がでてきてしまっ、反省しております。気をひきしめる為何かやりたいと思っ、ですが、今度、新図書館ができるそうですが、その中で一日中本を読む事ができたら最高でしょうね。

(ソニー榑厚木工場勤務)  
※多田祥子 57国※

香葉、楽しく拝見させていただきました。保母になり、無我夢中の一年が過ぎました。

フツと我にかえり、勉強不足をしみじみ感じています。それで、短大時代の教科書、ノートをひっくりかえし、「ふーん、ああ、そうだったのか」と（先生、ごめんなさい）勉強のしなおしです。時間があれば、短大までおしかけて、お話しうかがいたいのです。五十八年度横浜市公立保母会の会計をお受けして、先輩の先生方の足をひっぱらないように必死です。公立の保母数、今や九〇〇名以上、その多さに驚くやら、先が思いやられるやら、忙しい毎日を送っています。

（横浜市役所民生局・千丸台保育園勤務）

※砺波雅代 57幼※

ほとんどの友人が社会人としてがんばっているなかで私が専攻科で学んではや三ヶ月。週に三回しか授業はないのですが予習・復習でけっこう大変です。先生方ともすっかりおなじみになり、私個人としては知る人ぞ知る。〇〇先生のおかげで、すっかりパフ・フォーマン・スの世界にうずもれております。大学生活も三年目となると、私専攻科八人はこの学校の主（ぬし）のような錯覚にとらわれてしま

うのですよ。四ノ三〇一にこもりつきりで…。授業でも、すぐにあたる番がまわってくるし。ホント、笑っちゃいます。

※井沢裕美 58英※

社会人となりはやくも三ヶ月をすぎ、自分がかつて学生であったことが夢のような気がする今日この頃です。

現在私は病院の受付事務をしています。最近ようやく患者さんの名前も憶えることができ、仕事の方も楽しくなってきました。患者さんを相手にしているのいろいろな気を使いますが、時折、患者さんが家からわざわざお花をもってきてくださったりすると、本当に今の仕事につけてよかったと思います。

これから先も、「人となれ、奉仕せよ」の言葉胸に頑張りたいと思っています。

（柳橋病院勤務）

※杉谷美津子 58国※

むし暑さを感じるこのごろ、こちら栃木県では、雷とひょうに悩まされる日々が始まりました。と同時に山々に緑、そして花と、美しい季節にもなりまして、今月中旬からは、日光キスゲが愛らしい黄色い花をつけ始め、

高原は、黄色のじゅうたんに変わります。

在学中、就職できなかった私ですが、今は店を始め、やっとお客様との交流が深まり、落ち着いてきました。また、栄養士の勉強も生かそうと、身近な人の相談を受けたり、自分自身もさらに勉強をと、がんばっています。

（美樹ストアー勤務）

※高田貴美子 58家※

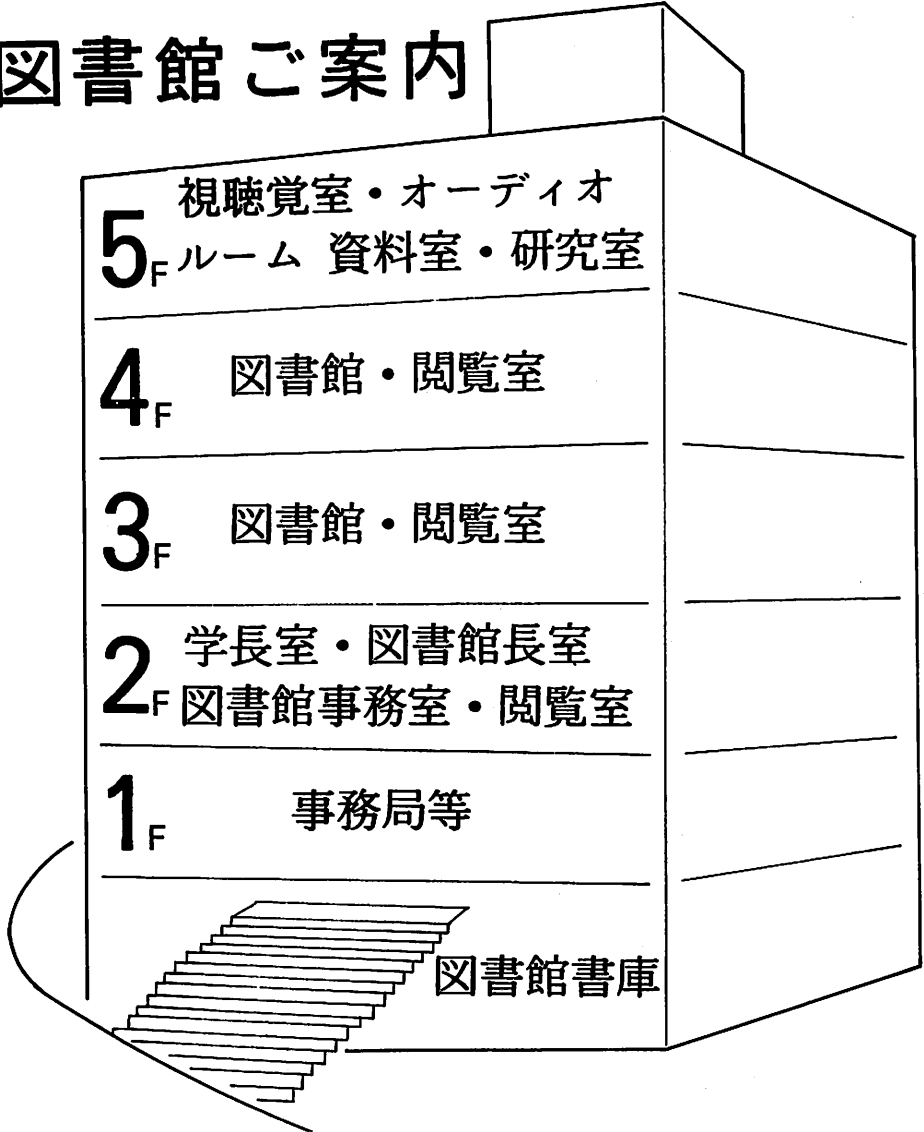
先生と呼ばれる生活も早二ヶ月が過ぎました。現在、副担として、幼稚園の事務・担任の先生方の手伝いをしながら、子供達とふれ新鮮な毎日を送っています。本当に先生になれるのか、自信がなくて就職にあたってずい分迷いましたが、今、本当にこの職を選んで良かったと心から思っています。まだまだ教員としての勉強はこれからだとファイトを燃やして、幼稚園に通っています。

（大津幼稚園勤務）

※山田淑子 58幼※

# つどい

## 図書館ご案内



# 香葉会の

皆様お元気ですか

今年は短大の図書館が完成し、また、関東学院創立100周年という、記念すべき年となりました。“香葉会のつどい”も久方ぶりに学校の校舎で開催されます。懐かしい先生方を囲み、そして新しい校舎、図書館を是非皆様の目で見てくださいと思います。役員一同心よりお待ちしております。お友達とお誘い合せの上是非ご出席下さい。

なお、図書館5階の資料室には懐かしい写真や、金沢八景の歴史・絵画等、数々の資料を展示、又、視聴覚室には16ミリ、ビデオ、レーザーディスク、2面スライドやO・H・Pが備えてあり、オーディオ室にはビデオや音楽を個人で楽しむ装置が完備しています。是非この機会にご覧下さい。

と き 昭和59年6月24日（日） 1:00受付

ところ 短大4号館  
(創立30周年記念館内食堂)

会 費 1000円

# 「第一回夏期海外研修」 を実施して

立花 桂



## 「研修の目的と内容」

本学はかねてから実施が叫ばれていた国際交流の企画を本年より実施することになった。今回は

「第一回夏期海外研修」と銘打って、8月16日より30日までの2週間、米国ハワイ州ホノルル市にて研修が実施された。学生の参加者は31名、引率者は英文科科長の宮川先生、家政科科長の山口先生、幼児教育科の中田先生、広報課職員の水脇氏、それに筆者を加えた5名で、総勢36名の「研修団」が構成された。研修の目的は、学生の異文化理解と英語力の向上であり、その内容は3つの柱より成っていた。第1はハワイ大学での研修、第2は現地でのフィールドワーク、そして第3は現地の社会見学であった。

「出発から到着まで」

われわれが出発した8月16日は台風の接近で大雨が降っていた。横浜シティ・エア・ターミナルで午後4時から「結団式」が行われ、学長、事務長をはじめ多数の短大関係者の方々、および父兄の方々の見送りを受け、雨の中を成田へ向ったのである。

パン・アメリカン航空六三便は予定通り午後9時に出発した。ホノルルまでの飛行は約6時間余り、途中日付変更線を通過、現地へは8月16日午前9時頃に到着した。日本との時差は一元時間である。

筆者にとって、ハワイは都合12回目の訪問、特に興奮することもなかったが、学生達にとってはやはりあこがれの外国、それぞれ希望と期待とを胸にホノルル国際空港へ下り立った様子であった。

入国と税関の手続きをすませると、レイサービスが待っていた。アロハシャツやムーミーを着た現地の人がレイを一人一人にかけてくれ、頬にウエルカムキッスである。いかにも観光地という感じだが、われわれは観光に来たのではない。5月中旬から10週間の前講義を経て、ようやく研修のためホノルルへと到着したのである。

簡単な市内観光の後、われわれはホテルに

チェックインした。学生達は、往路の飛行機の中であまり睡眠がとれなかったのか、時差の関係からか、ほとんど疲れ切っていた。これからの2週間が少々心配になってきたが、元気な者も数名いて、午後の時間をホテル周辺の散策にあてていた者もあるときき、多少安心した。

ホテルは現地での生活体験ができるようにとの配慮から、アパートメントホテルとしてあった。アパートメントホテルとは各部屋にキッチン、冷蔵庫、食器類等を備えたもので、自炊が可能なものを言う。われわれのホテルは「バゴダホテル」といい、ホノルルの歓楽街からは少し離れたアラモアナ地区に所在し、近くにはショッピングセンターやスーパーマーケットなどがあり、生活には便利な場所であった。(学生は期間中に必要に応じて自炊することが求められている。)ビーチへも徒歩二分位で行けるし、ハワイ大学へも隣のバス停から二分位で通学が可能であった。

## 「ハワイ大学での研修」

8月17日から7日間にわたってハワイ大学スピーチ学科で研修が行われた。ハワイ大学

はホノルルの市街から約2マイル離れたマノアバレーにあり、キャンパスは三〇エーカーと広く、両側を小高い丘に囲まれた大学である。地理的な条件から、キャンパスにはよく雨(シャワーと呼ばれる)が降り、美しい虹がかかって、「レインボーユニバーシティ」と呼ばれるのである。緑もあざやかで、あちこちに散在する白亜の校舎と美しくマッチし、その景観は素晴しかった。

われわれが大学へ着いた時はシャワーの出迎えであった。湿度が少ないので、シャワーの洗礼を受けても、少しもベトつかずかえって気分爽快であった。スピーチ学科はキャンパスの西側に位置するジョージホールという建物にあった。

オリエンテーションは午前9時から始った。まず、スピーチ学科長のキャンブラ博士のウエルカムスピーチがあり、宮川団長のあいさつと続き、講師の紹介、当方学生代表として専攻科の池上尚子君のスピーチ、諸々の注意事項で終った。

その後、学生は2グループに分れ、英会話講師のオカ先生、マオ先生(いずれも中国系アメリカ人のご婦人)に伴われ、それぞれキャンパスツアに出かけた。アメリカの大学は

一種のコミュニティを形成するのが普通で、キャンパスの中には銀行、郵便局、床屋、劇場と日常生活に必要なものから、アカデミックなものまで何でもそろっている。各所を巡りながら学生は皆その規模の大きさと、整然とした運営に驚き、感激していた。

昼食は大学内のキャフeteriaで各自めいめい取った。日本の学食とは異って、そのスケールの大きさ、メニューの豊富さ、そしてちょっとしたレストランのような雰囲気。学生は又々感銘を受けていた。

こうしてハワイ大学での研修は翌日から実際に始ったのである。午前中の時間を利用し



オカ先生の授業

て、英会話が凸分、アメリカ文化の講義が凸分である。英会話は2グループに分れ、オカ先生とマオ先生が担当、「自己紹介」、「アメリカの家庭生活」、「デート」等の主題で授業が行われた。各授業にはゲームが取り入れられたり、各人の競争で問題を解かせたりと活発な手法が用いられた。学生は最初の1/2日はあまり元気がなかったが、慣れてくるに従って、活発に授業に参加するようになり、楽しく授業を受けていたようである。

アメリカ文化の講義はキャンブラ博士が受け持った。彼は三代半ばの色の浅黒い紳士であり、話の仕方が極めて上手で、ユーモアのセンスに富み、大変味のある講義を行った。講義の内容は「アメリカ人の物の考え方、価値感」、「ハワイ語の特徴」、「アメリカ人のコミュニケーション」等多岐にわたった。学生は彼の話熱心に聴き入っていたが、やはり難しさはかくせない。講義終了後、宮川団長が要点を日本語で解説し、学生の理解の手助けをした。

ハワイ大学での研修はあっという間に終り、8月5日は修了式であった。キャンブラ博士は各自に修了証書を手渡され、学生は千羽鶴でつくったレイを3人の先生方に、又、日本



修了式

から持参したお土産をおくり、楽しい交歓が持たれた。教えて頂いたハワイアンソングを歌い、日本でも最近めったに聞かれない「あおげば尊し」などが歌われた。感動の一週間はこうして終わった。

### 「フィールドワークのことなど」

この研修にはハワイ大学での研修の他に現地で、前もって各自が選んだテーマに従ってフィールドワークを行うという重要な目的があった。学生のテーマは「日系移民」、「ポリネシア文化」、「マスコミ」、「学生の意識」、「家庭生活」等にわたっていた。各テーマご

とに、ハワイ大学の学生の手伝いでしかるべき場所を訪れ、実施に見聞するという方法が取られた。各グループとも現地の人達の生活の中へ直接入り込み、有意義な調査が行われた。

本学英会話講師のコンプトン先生、エスター・カネコ先生のご紹介で、滞在中2度の日曜日には教会を訪問することもできた。8月3日はセントラル・ユニオン・チャーチの礼拝に出席、同教会の創立五〇周年記念の行事、朗読劇等を鑑賞、素晴らしい経験であった。午後には教会員の方々の家庭訪問をした者、教会員の方々とビーチに出掛た者と何にも代え難い貴重な時を持つことができた。

8月28日はマキキ・クリスチャン・チャーチの礼拝に出席した。この教会は日本の高知城を形取った建物で、大変ユニークなものであった。日系の方々が多くおられ、大変親切にもてなしてくれた。青年会の方々と歌やバレー・ボールで交歓し、又々有意義な時を過ごすことができた。その他州議会も訪問した。下院議員のダング氏の案内で議会の内部を見学することができた。

8月26日には、セントラル・ユニオン・チャーチの教会員の方の経営する「看護病院」

を見学した学生もあった。アメリカ式のナースリー・ホスピタルと呼ばれるもので、学生は貴重な体験をしたと感激していた。フィールド・ワークの成果は後日レポートとして発表される。

### 「結びとして」

以上、まだまだ書き尽くしていないが「第1回夏期海外研修」はパラエティーに富んだプログラムを消化して終了した。

研修のかたわら、教会や他の施設を訪れることができたことは何にも代えがたい。ハワイを訪問する人々の大半は観光客であり、観光地を訪れることはあっても、現地の人々の日常生活にまで接する機会はめったにない。現地の人々も、日本からの訪問者を、単に観光客としてしか見ようとなしない傾向もある。こういった現実にあって、わが学生は、真の意味で現地とふれ得たのである。国際交流の真の意味を体験できたのである。1人の学生がふもらした言葉に筆者はそれを見た。彼女は何気なく、「こちらの人は自分の世界を持って歩いている」と言った。



## クラス会報告

### △英文科一期クラス会▽

昭和二十七年に英文科卒業後、大学経済学部で学びアメリカへ留学してそのままアメリカで生活して居られた山路淑子さん（グロリア・アリモン）が一時帰国されるといふ噂を耳にしたのは七月のこと。卒業以来三十年不明だった住所が解り、早速アメリカへ便りを出し、クラスの全員集合を呼びかけました。八月二十一日という夏休み半ばのことで旅行中の人が多く、集まったのは五人というささやかなものになりました。門根先生も元気に出席して下さり、第一会場のザホテルヨコハマから二次会を長谷川さん経営の横須賀は「証の家」に移し、新鮮な魚料理を堪能しつつ、互いの消息を語り合いました。山路さんはアメリカ人のご主人との間に三人の娘さんがおられ、現在も福祉関係の仕事が続けておられる由。昔に比べて



ゆったりした話し方は日本語が大分不自由になられたと思われましたが、皆忽ち学生気分になり立ち戻って、今年二月に亡くなられたミセス・スタッピングのこと、ピース夫妻のこと等々喋りまくりました。皆白いものが目立ち、一年を大事に思つ年になりましたが気持ちは若々しく楽しく過した一日でした。

（古城記）

### △国文科七期生第二回めだかの会▽

去る昭和五十八年五月二十九日、懐かしい短大校舎に於て国文科昭和四十八年度卒業生の同窓会を催しました。

昭和五十年五月の第一回めだかの会から七年振りの再会となり、三十路を迎えた二十名ほどのめだか達が集まりました。幸いに、岡松和夫先生、山下登喜子先生もご出席くださって、賑やかに話の花が咲き楽しい午後の一ときを過しました。

（太宰記）



### △英文科▽

昭和五十八年十一月十九日、横浜のアンダント（パブ）にて卒業後五年ぶりのクラス会を行いました。四十五名中十四名の人が参加し、加藤紀子先生にも出席していただきました。

ある人は転職し、ある人は結婚し、ある人は子育てにがんばっています。卒業して五年もたてば適令期、既婚者がクラスの $\frac{1}{2}$ 、決まっている人も何人か……。今度会う時は、子連れクラス会になるかもしれません。とても楽しみです。

（前多記）



カンヤウ子

# 五十八年度 “香葉会のつどい” 報告



今年の集いは六月二十六日(日)午後、ホテルリッチ九階のレストランを借りて開かれました。梅雨のさ中でしたがお天気に恵まれ先生方職員の方達を迎え六十名余が出席、お子様三人の参加もあり、なごやかな会でした。例の如く礼拝、総会を三十分の内にすませ、

上市事務長から、ご出席下さった先生方のご紹介をして戴きました。林学長から学校の近況報告があり、短大入学生志望者が年々増加し入学が難かしくなっていること、来年の三月には事務局、図書館を含む新校舎が完成することなど嬉しいお話があり、ご出席の安藤先生、小玉先生、加藤先生、徳永先生、千葉先生、中田先生から一言ずつのスピーチを戴きました。事務長補佐として新たに就任された鈴木先生のご紹介もありました。ステークの昼食を戴きながら、卒業生の方々からそれぞれの年代の体験、エピソード、抱負など伺い心なごむ一時を過し、再会を願って散会しました。五十九年は、新築の校舎を是非見て戴きたく、学校での集いを計画しております。初めての方も、金沢の海と思いい出のキャンパスを、ご家族同伴でお訪ね下さい。役員はじめ世話人一同、趣向をこらして皆様のお出かけをお待ちしております。

(古城記)

懇親	第2部	司会 葛城 容子
	懇親	
総会	第1部	総司会 中島真由美
	礼拝	司会 光畑 清
	前奏	奏楽 中石みどり
	讚美歌	マタイによる福音書第5章9節
	聖書	
	祈禱	
	讚美歌	
	黙禱	
	後奏	
	事業報告	
会計報告		
新年度予算案		
その他		

## 香葉会 昭和57年度決算、58年度予算

昭和57年度決算				昭和58年度予算	
収入の部	予算	決算	増減	収入の部	予算
会費@4,000×745	2,980,000	2,980,000	0	会費@4,000×754	3,016,000
合同奨助金@1,000×745	745,000	745,000	0	賛助金	400,000
奨助金(227名)	400,000	447,757	△ 47,757	委託販売手数料	600,000
委託販売手数料	700,000	506,189	193,811	總會費	100,000
總會費	—	150,000	△ 150,000	預金利息	10,000
預金利息	50,000	12,902	37,098	雑収入	5,000
雑収入	—	32,000	△ 32,000	積立金より	500,000
積立金助定より繰入	1,000,000	775,080	224,920		
合計	5,875,000	5,648,928	226,072	合計	4,631,000
支出の部	予算	決算	増減	支出の部	予算
通信費	1,600,000	1,178,940	421,060	通信費	1,200,000
印刷・製本費	500,000	603,913	△ 103,913	印刷・製本費	650,000
總會・会合費	800,000	642,010	157,990	總會・会合費	700,000
交通費	80,000	51,000	29,000	交通費	70,000
用品費	10,000	345,000	△ 335,000	用品費	10,000
委託費	70,000	64,895	5,105	委託費	50,000
謝礼費	100,000	50,000	50,000	謝礼費	70,000
消耗品費	10,000	12,810	△ 2,810	消耗品費	20,000
人件費	400,000	400,050	△ 50	人件費	450,000
合同同窓会分担金@1300×745	968,500	968,500	0	合同同窓会分担金@300×754	226,200
新入会員歓迎費	1,290,000	1,200,600	89,400	新入会員歓迎費	995,800
積立金助定繰入金	0	0	0	雑予備費	29,000
名簿発行準備	0	0	0	予備費	160,000
雑予備費	16,500	6,340	10,160		
予備費	30,000	124,870	△ 94,870		
合計	5,875,000	5,648,928	226,072	合計	4,631,000

### 合同同窓会報告

昨年から引続き会館購入の可能な規約作りにはげんでおりますが、まだ準備不十分で、今年の総会には間に合わず、持ち越されました。来秋は開校百年の色々な行事が予定されているので同窓会としても募金を含む何らかの活動をする事になると思えます。その折には是非ご協力ください。

厚木市を中心に神奈川県中央地域の市町村に在住の卒業生を集めた燦葉会県央支部という会が出来、燦葉会の会員も参加しております。県央に在住の方々には積極的にご出席ください。一年一度の会合には燦葉会からも、会長、副会長、幹事長が出席して、会員の皆様への紹介をし、要望を伺っております。五十八年は十一月十日(土)厚木市小杉会館で、開かれました。尚、連絡場所は左記の所です。

厚木市酒井一五六五 燦ヤクルト販売内  
燦葉会県央支部県央のつどい  
会長・中村巧

# 賛助金をご寄付

くださった方への

お礼とお願ひ

今年も後記の方々から総額「三十八万五千八十七円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむづかしくなつてまいりましたが、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集員一同がんばつておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

## 五十八年度賛助金寄付者(敬称略)

菅野弘恵 雨宮慶子 京免静子 小野寺裕子  
渡辺智子 鈴木牧子 山本陽子 森田いく子  
北尾文代 安田千春 志村裕子 山口ユミ子  
田辺洋子 時田信夫 中江邪子 加藤かよ美  
添畑晴枝 渡邊光代 矢田宏子 中嶋貴美子  
横山公子 高橋静子 小山恭子 落越喜久子  
有田玲子 前納順子 白井厚子 福田しほり  
長部富子 木村燦子 中川洋子 明石美智子  
高橋秀子 大高悦子 臼田修良 長嶋久美子  
中野節子 峯尾愛子 稲垣愛子 小田部有子

砺波雅代 大塚則子 松本紀子 錦織マサ子  
武藤富代 菊地和子 川上直子 吉原千恵子  
神部映妙 倉田恵子 島田郷子 鈴木美智代  
山平洋子 芦川裕子 伊藤陽子 小林千鶴子  
平森美樹 別府弘子 山口祐子 吉田千恵子  
西川圭子 高山政子 土屋明子 菅原千代子  
中根悦子 鈴木弥生 山田明代 渡辺登美子  
中村智子 小松照代 押田厚子 布谷美知子  
萩原明美 守屋和子 布施みえ 水野香代子  
松田良子 原嶋暎子 宗川紀子 桐木恵美子  
小野和子 蔽登喜子 土山典子 良知ちひろ  
笠井直美 石田早苗 芥田美子 鈴木もと子  
澤口和子 関根幸子 安部純子 蔵田あけみ  
松垣好子 森谷敦子 桐原千恵 佐々木晶美  
細野清美 井田玲子 清水祐子 島田絵里子  
玉木宮子 佐藤久子 内田康子 稲鳥三枝子  
松岡伯江 秋山啓子 山崎広子 椿原千佳子  
秋山悦子 住吉桂子 梅田玲子 持田しげ代  
高村須美 吉屋保子 山口周子 富田貴美子  
西瀧京子 古賀恵子 寺岡利子 山崎由紀子  
石川洋子 長井恭子 鶴見智子 高野由美子  
恩田靖子 広瀬啓子 寺内雅子 土田由利子  
畑中頼子 小島純子 岡崎幸恵 後藤美和子  
殿木結花 重藤周子 堀越昌子 田中真喜子  
佐藤薔薇 島本千佳 水木直子 田丸瑠美子

尻瀬俊子 大井法子 三浦愛子 福岡世紀子  
平井道子 蛭間洋子 居出祐子 長谷部恭子  
小島美咲 月本鈴子 松友明見 中村はるみ  
川口靖子 塚本令子 相吉典子 宮入由紀子  
石田禎子 井上啓子 加藤紀子 馬屋原絹子  
阿部幸江 出榮美子 佐藤美代 菊池美智子  
相原梅子 吉田知子 金田祥子 井上多恵子  
福川浩代 川島久里 秋田弘子 鈴木恵美子  
成瀬節子 安彦潤子 川上妙子 谷垣みどり  
大島智子 古城房子 古郡綾子 中島真由美  
平沢鉄夫 葛城容子 飯田梁子 青木千恵子  
飯吉玲子 洲上龍美 天羽富江 長谷川有紀  
田代司 黛博子 リーディ美子 鈴木志津子  
林幸美 根本京 海老澤さよ子 五十嵐亮子  
夕八茜 加藤薫 星明美 仲尾曜 辻祐子  
林純子 光畑清 原央子 長谷川不二恵  
小野寺由美子

(以上二〇六名)



## 母校ニュース

### △新任教職員紹介▽

笠原 久弥先生——一般教育担当



五十八年度より専任教授になられました。生活科学・特殊栄養学・体育講義等を受け持たれていま

す。前年度まで横浜市保健所長として活躍され、五十八年七月十二日は横浜市功労者として表彰されました。スポーツ万能。球技はほとんどこなされるとのことです。

鈴木 彰さん——事務長補佐（図書館事務



課長兼任）同じく五十八年度より事務長補佐兼図書館事務課長として法人調査室から異動になりました。新

図書館完成に伴い益々お忙しい毎日です。

### △第二回夏期公開講座開催▽

昨年度に引き続き、本年度も夏期公開講座が開催された。

今回は家政科が担当。五十八年七月二十一日、二十九日、三十日の三日間「生活を科学する」の統一テーマのもと、午前中講義、午後は実験・実習の型で実施された。

内容は、第一日が和田淑子助教授による「美しく調理する」、第二日が吉田博助教授による「甘味を考える」、第三日が渡辺紀子助教授による「合理的に洗濯する」。

受講生は、当初予定の三十名をこえ、三十八名で準備の都合上受付を中止する程の盛況。四十歳代の主婦中心であったが、和やかな雰囲気の中にも、熱の込められた学習が続けられていた。

三日目には、閉講式が行なわれ修了証が受講生全員に授与されたが、「少々難しかったが、楽しく有意義であった」の感想も聞かれ



和田助教授の「美しく調理する」

無事終了した。

### △夏期海外英語研修実施▽

第一回夏期海外研修が、五十八年八月十六日より二十九日までの二週間に渡り、ハワイで行われた。

研修団には、英文科長・宮川喜代江教授を団長に、家政科長・山口和子教授、幼児教育科・中田弘良教授、英文科・立花桂講師、広報課・血脇敏雄課員が引率者として任命され生活指導、語学指導、渉外、折衝、記録、会計、衛生・救護、情報伝達等の職務を分担した。

参加学生は、専攻科五名、英文科十八名、家政専攻四名、食物科学コース一名、幼児教育科三名の計三十一名で、引率教職員を含め三十六名の研修団となった。

現地では、午前中ハワイ大学での講義、午後は各学生が自由にテーマを決めて研修活動となり忙しい毎日であった。宿泊したホテルでは、備えつけのキッチンで一日おきに自炊の生活。これはマーケットなどで直接英語を使って買物をし、現地の生活を肌で体験することができた。

このように、観光旅行では知ることのできない貴重な経験を学生が多く学びとることの

できた、意義ある海外研修であった。

△安藤教授、井口教授、瓜巢教授、任期満了に付退任

長年にわたり、短大の発展に寄与された、幼児教育科・安藤寿々代教授、同じく瓜巢憲三教授、家政科・井口安喜子教授は、五十九年三月をもって退任されました。尚、安藤教授、井口教授は、多年にわたる業績を功績に對し、名誉教授の称号が贈られました。

#### 創立記念日変更

創立三〇周年を記念しこの機会に、現行の一月二七日だった創立記念日を、十月六日とすることになりました。た。

#### △名誉教授松垣好子先生召天▽



松垣好子先生は、五十八年十二月一日朝、八十歳の天命を全うされました。謹んで哀悼の意を表します。尚、ご主人様は八十半ばを過ぎてご健在でいらっしやいます。現住所は左記です。

横浜市鶴見区馬場町一―二十四年―二十一

## 編集後記

長かった冬もようやく終わり、一日と暖かくなっていくこの頃、『香葉』十三号を皆様のお手元にお届けすることができ、大変うれしく思っております。

今回は、昨年夏に実施された第一回夏期海外英語研修セミナー、新図書館完成等、学内の大きなできごとを先生方に執筆していただき、母校のますます発展していく様子を皆様にご覧いただけたのではないかと思います。

昨年の総会出欠通知のハガキより転載させていただきました「香葉室」では、どのハガキにも皆様のご活躍がうかがわれ、私共編集委員も大変刺激され、また大きな励みになりました。同時に紙面の都合上一部しか皆様にお読みいただけないことを残念に思います。

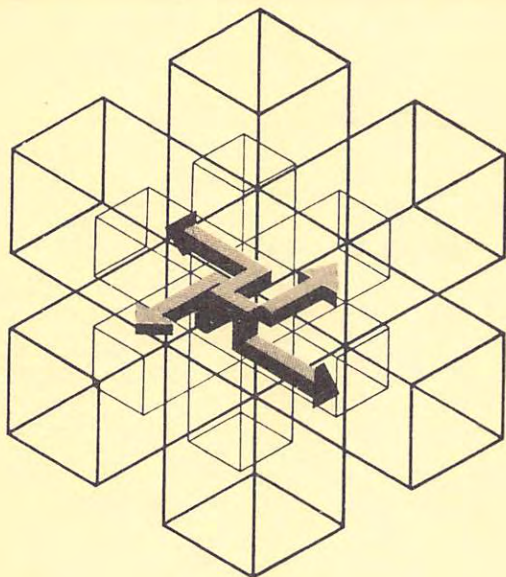
お忙しい中にもかかわらず、気持ちよく執筆にご協力くださいました学長先生はじめ諸先生方、「展望」のインタビューにご協力くださいました先生方に心より感謝申し上げます。

不慣れな者ばかりですので、果して皆様に楽しんでいただけたかどうか不安です。何かご意見ご希望があればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

(中島記)



中島真由美 田中智子 三輪浩美 湖上龍美 (香葉会事務)  
菊地恭子 樋口由美子 井上啓子



## 後輩へ就職求人を!

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記学生課就職係迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内226・258  
関東学院女子短期大学学生課就職係

## 香葉 第13号

昭和59年5月18日 印刷・発行  
関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話<045>784-1491 (内線 216)

関東学院同窓会・香葉会誌